（別紙５）

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス・アニマート名護うむさの森

公表日　8　年　2　月　27　日

		チェック項目	はい	いいえ	行い	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	2	学習時と活動でスペースを分け、事業所内や事業所裏のスペース、公園などを活用しています。	利用人数や天候に応じて、活動スペースの使い方を引き続き工夫していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2	1	下校時間が重なる時間帯は職員配置をまとめ、児童が安全に過ごせるよう対応していきます	送迎時間や活動内容に応じて職員配置や役割分担を見直し、安心して支援できる体制づくりを進めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	入口のみスロープが配置されており、その他の箇所は未整備の為、職員が安全面を考慮しながら見守り対応を行っています。	今後も安全面への配慮を続け、安心して利用できる環境づくりを進めていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	1	毎日の清掃に加え、定期的に消毒を行い、空気清浄機を使用して清潔で過ごしやすい環境づくりに努めています。	引き続き環境整備に努めてまいります
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		プログラムの内容や児童の状況に合わせ相談室を一時的に利用することもあります。	引き続き環境整備に努めてまいります
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	2	日々のミーティングなどで情報共有を行い適時振り返りを行っています。	引き続きより良い支援ができるように努めてまいります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	アンケートの調査結果を職員間で話し合い共有しています	アンケート結果の共有は行っている為、今後は内容をより具体的な支援や業務改善につなげていきたいです。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		日々朝夕のミーティング等で職員感で話し合い改善につなげています。	引き続きより良い支援ができるように努めてまいります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3			グループ法人で第三者委員会が設置されています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		社内および法人内での研修の機会を確保し、必要に応じて随時研修を行い、日々に業務を活かしています。	研修に積極的に参加し学びの機会を確保してまいります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		支援プログラムは、職員間のケース会議や保護者との面談内容をもとに作成しています。	支援内容がうまく伝わるよう、共有方法や説明の工夫を行っています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		社内独自のアセスメントツールを用いて子供の課題を分析しています。	アセスメント内容を、より分かりやすく支援に活かしていく工夫が必要です。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		ケース会議を実地し関わる職員一同で支援について協議しながら作成をしています。	引き続き、より良い支援ができるように努めてまいります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	2	1	支援計画を職員間で共有し、日々の申し送りや記録を通して支援内容の確認を行っています。	職員間での情報共有を、よりスムーズに行って行く必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1	作成時に職員で協議を行い、適切な内容となるような留意にながら作成をしています。	職員感での協議は行っているが、記録や亜Sメントの視点にばらつきが出ないよう、共通理解を深めていくことが課題であります。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		五領域を踏まえて、児童と家族が明るい将来の見通しができるように支援をしています。	ライフスタイルの変化に備え移行時期には、関係機関との連携を図るようにしています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		職員間で話し合いをしています。	様々な日課を通して支援が出来るように職員全員で検討し利用者様の意見も取りいれながら立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		利用者様からのリクエストのも答えられるよう機会も設けています。	利用者からのリクエストを取り入れているが、活動内容が偏らないよう定期的に振り返りを行い、内容の見直しを行っていく必要があります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		利用者様の状態や状況に応じて活動を取り組めるよう作成をしている。	利用者の状況に応じた支援について、職員間での共有と振り返りをより丁寧に行っていく必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		朝のミーティングの時に話し合いを行い、その日の支援内容や役割分担について確認をしています。	引き続きより良い支援ができるように努めてまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3		朝、夕のミーティングを行い、振り返りや注意事項などを共有しています。	今後も綿密な打合わせを行い、支援内容や振り返りを整理し日々の支援に活かしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		個別の支援記録とは別に、記録をしています。	個別ごとにその日の内容や状況等を、支援内容や連絡帳へと記録、保管を行い今後の支援改善へとつなげていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		支援計画の更新時や、その他必要に応じてモニタリングを実施していきます。	引き続き適切なモニタリングを実施していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	2	1	4つの基本活動と五領域にも沿った支援を組み合わせて計画の作成、支援に反映しています。	4つの基本活動を意識した支援は行っているが、活動のねらいや組み合わせについて職員間での共有をより充実させていくことが課題である
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2	1	プログラム内でも児童と相談をして決めることや、選択の機会を活動内で提供するようにしています。	児童と相談しながら決める場面は設けているが、すべての活動において自己選択の機会を意識的に取り入れていくことが今後の課題である。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		児童発達管理責任者が参画しています。	会議の内容を全スタッフに報告をすることで共有しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		関係機関と日頃から連絡を図り、情報共有を行うことで、必要に応じた対応ができる体制を整えています。	連携体制は整えているが、情報共有の内容方法についてもっとより分かりやすく整理していく必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		長期休暇の予定や学校などの予定変更等は保護者様からのご連絡をいただき、必要に応じて時間変更等などの対応をさせていただいています。	内容については事業所内で共有を行っtいます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		必要に応じて情報交換を行っています。	引き続きより良い支援ができるように努めてまいります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		対象者がいらした場合は、これまでの支援内容等に、情報提供を行っていきます。	積極的に意見交換や情報交換などを行うようにします。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	3		必要に応じて参加します。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	2	定期的な交流はありませんが、地域の公園などで地域児童と一緒に活動する機会を得ています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3		必要に応じて参加をしています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		送迎時などに様子の情報共有を伝えたり、ご自宅での様子を伺い情報共有をしています。	保護者と会えなかった場合は、電話、メールにて連絡を取り合うようにしています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2	家庭内での聞き取りや、相談へのアドバイス等、個別に対応をしております。	本格的に行えないので、年1回行う研修に参加予定をしています。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約時に一通りの説明を実施しています。	今後も丁寧な説明に努めます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		モニタリングを通して保護者の話を聞き、放放課後等デイサービス計画の作成時には、その思いや希望を大切にするよう努めています。	保護者の話を聞いているが、思いや希望について、より細かく確認していく必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	3		放課後等デイサービス計画を示しながら、対面で支援内容の説明を行い、保護者の同意を得るようにしています。	今後も丁寧な説明に努めます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		定期的にはモニタリングの際や、日常のやり取りを通して保護者の相談に応じ、子育ての悩みに限らず必要に応じて面談や助言を行っています。	相談への対応は行っているが、相談のしやすさ対応の進め方について工夫していく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	2	保護者会は設置できていないが、事業所でのお店屋さんごっこを中心に交流できる機会を作り、行事を通して保護者同士きょうだいが関わるきっかけ作りを行っている。	交流の機会は設けているが、参加しやすさについて工夫をしていく必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		苦情や相談があった場合に迅速かつ適切に対応できるよう、日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にし、相談しやすい関係づくりに努めてる。	今後も、苦情や相談に円滑に対応できるよう、保護者との信頼関係を大切にしながら、相談しやすい関係づくりを続けていくことが課題である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	2	定期的な通信の発行には至っていないが、必要に応じて、口頭や連絡帳等を通して、活動の様子や連絡事項を伝えるよう工夫している。	今後はより分かりやすく安定した情報を提供を継続していく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報が記載された書類は、施錠できる場所で保管をするなど、第三者の目に触れないよう適切に管理している。	個人情報の取り扱いについて、引き続き適切な管理を行い、職員間での共通認識を保っていく必要がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		子供の特性を把握したうえで、一人ひとりに合わせた配慮を行い、意志の疎通や情報電辰を行っている。	子供の特性に応じた意思疎通や情報伝達を継続していく必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	1	イベント等で地域のお店を利用するなど地域交流は図っています。	地域に開かれた事業所運営ができるよう務めてまいります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		マニュアル作成し研修、避難訓練を定期的に行うようにしています。	引き続き、訓練等の実施と内容周知を行ってまいります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		地震・火災・水害の避難訓練をマニュアルに従って実地しています。	年に2回児童と一緒に、避難経路、避難場所を確認しながら訓練を行っています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		事前に服薬がある場合や疾患の確認と対応をお伺いをしています。	情報共有に努めてまいります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		アレルギーのある児童にには保護者からのヒヤリング、医師の指示書に基づき支援を行っている。	アレルギー対応について、職員全体の共通認識を持てるよう、日頃から確認や振り返りを行って行く。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		安全計画に基づき、必要な研修や訓練を実施するとともに、訓練後には振り返りを行い、日々の支援に活かしている。	研修や訓練で学んだことを、日々の支援にしっかりと活かしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3		子供との安全に関わることは、日々のやり取りの中で保護者と確認し合うようにしている。	子供の安全に関する情報を、家庭との共有していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		ヒヤリハットが発生した場合は、その日のミーティングで共有し、重大事故へ繋がらないよう確認をしている。	ヒヤリハットの内容を振り返りながら、再発防止につなげていくことが大切である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		年間スケジュールに研修日程が組み込まれています。	引き続き関係機関との連携を図りつつ、定期的に研修を実施していきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			身体拘束を行う利用者はいませんが、必要に応じて児童や保護者に説明をし、了解を得た上で個別支援計画にも記載をしていきます。